

2018年度 荒川流域一斉水質調査結果表(6月3日)

Table with columns: ID, 河川名, 区市町村名, 調査地点名, 調査日, 時刻, 気温℃, 水温℃, 特記事項, COD, EC, 調査団体名. Contains 100 rows of survey data for various locations along the Arakawa River.

Table with columns: ID, 河川名, 区市町村名, 調査地点名, 調査日, 時刻, 気温℃, 水温℃, 特記事項, COD, EC, 調査団体名. Contains 100 rows of survey data for various locations along the Arakawa River.

Table with columns: ID, 河川名, 区市町村名, 調査地点名, 調査日, 時刻, 気温℃, 水温℃, 特記事項, COD, EC, 調査団体名. Contains 20 rows of survey data for various locations along the Arakawa River.

川荒川流域一斉水質調査の経過

1995年10月に国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所の協力を受け、27団体が参加して第一回の水質調査を実施した。それ以降毎年6月の第一週の日曜日に実施してきた。参加団体は次第に増え、市民団体の他にも大学など40前後の団体や個人が参加する大規模な活動になった。また、調査範囲も荒川流域から利根川水系や新河岸川水系の河川や用水路にも広がってきた。長年、新河岸川水系や多摩川水系の団体に合わせて同日に実施してきたが、2004年からは全国水環境マップ実行委員会による全国一斉

調査試薬と調査器具について

2009年までは、COD（化学的酸素要求量）、NH4+－N（アンモニウム態窒素）、NO2-－N（亜硝酸態窒素）、NO3-－N（硝酸態窒素）、pHについてバックテストを使った調査を行ってきたが、諸般の事情から2010年からは、全国一斉水質調査に合わせた上限が8mg/Lの低濃度用バックテストを使ったCODとECメーターによる電気伝導率の測定に切り替えた。CODは、各ポイントについて3回調査し、その中央値をCOD値とする。上限を越えた時は蒸留水で希釈して測定する。電気伝導率は、ms/cmの単位で読み取ったものをmS/mの数値に換算して表記してある。

調査ポイントについて

2011～2014年は河川ごとに原則上流から番号を付け、調査ポイントを赤字で示し、表の番号と対応させている。ポイント間の距離が短かったり、参加団体間で調査ポイントが重なっている場合は、水質情報をマップへ載せていない。2016年からの調査ポイントは河川ごとに「1D記号番号」で表記し、表及びマップに対応させた。・1D記号と河川（流域）名は、以下の通りである。Ar：荒川本川、Os：大里用水、Wy：和田吉野川、Ho：星川・忍川、Kk：鴨川・鴻沼川、Ma：元荒川、Tn：利根川

2018年度の調査結果について

水質マップにおける水質濃度の表記方法としてCODは、全国一斉水質調査に合わせて、○印：COD0～3mg/L未満、□印：COD 3～6mg/L未満、☆印：COD6mg/L以上の三段階とした。E印は、白色：測定値なし、水色：～15mS/m未満、青：5～25mS/m未満、黄：25～35mS/m未満、橙：35～45mS/m未満、赤：45mS/m以上の六段階とした。

2018年6月3日の荒川流域一斉水質調査結果のCOD・ECを濃度範囲ごとの地点数及び比率(%)について下表に示す。

Table with 3 columns: COD範囲, 地点数, 比率(%). Rows include COD 0~3mg/L未満 (42, 16.6%), COD 3~6mg/L未満 (102, 40.3%), COD 6mg/L以上 (109, 43.1%), and 合計 (253, 100.0%).

Table with 3 columns: EC範囲, 地点数, 比率(%). Rows include EC ~15mS/m未満 (15, 6.1%), EC 15~25mS/m未満 (120, 48.6%), EC 25~35mS/m未満 (70, 28.3%), EC 35~45mS/m未満 (33, 13.4%), and EC 45mS/m以上 (9, 3.6%), and 合計 (247, 100.0%).



「もりんど」による水質測定



「荒川の清流を考える会」による水質調査



「生活クラブ生協寄居支部」による水質測定